

山形県大会講評

男子団体

- Aゾーン 山形五中が天童三中との三番勝負を4 - 0でとり、鶴岡四中戦に臨みましたが、力出せず2 - 0で敗退、鶴岡四中が貫禄を見せ最初に決勝リーグに進出しました。
- Bゾーン 宮内中が初戦に酒田六中と三番勝負ファイナルで勝つと勢いに乗り新人北ブロック大会2位の新庄中も破り決勝リーグに。新庄中は気合いの入った戦いをしましたが、プレッシャーからかボールに勢いがなく力を発揮できず惜しくも敗退しました。
- Cゾーン 米沢四中は初戦に新人南ブロック大会で負けた山形一中との試合を三番勝負で振り切ると、続けて鶴岡一中戦は一番後衛を三番に回し勝負をかけると見事あたり決勝リーグへ。
- Dゾーン 注目の余目中对長井北中はお互いに一番手が取り二番手同士の三番勝負に。ここで、余目中が1ゲーム目を取った2ゲーム目3 - 0から落としたのがひびき、徐々に粘る長井北中に対してミスが出て敗退。長井北は続く陵南中とも三番勝負で振り切りました。
- 決勝リーグ 鶴岡四中は宮内中、米沢四中戦とも2 - 1で取り最終戦を待たずに優勝を決めました。また、接戦ながら2試合を落とした長井北中は2敗となり最終戦を待たずに2位がなくなりました。暑さのためか、長井北中は朝の粘りがなくなったのが残念でした。最後、宮内中と米沢四中との勝てば2位という大勝負は、2 - 0で米沢四中がとり、久々の東北団体出場となりました。

女子団体

- Aゾーン 宮内中と真室川中との試合は一番手同士の試合を0 - 3から逆転した真室川中でしたが、層の厚さで逆転負け。宮内中と山形二中との大一番は高橋先生の山形二中对策が実り接戦となりましたが、自力に勝る山形二中が2試合とも4 - 2でとり決勝リーグに。
- Bゾーン ここは羽黒中が二回戦で陵南中に2 - 1でしたが、羽黒中は上2つはかたいのでまず危なげなく決勝リーグに。
- Cゾーン 一番の激戦ブロック。山辺中が山形一中を、酒田三中が米沢四中をいずれも2 - 1でやぶりました。特に、米沢四中は一番手を最後に回し勝負に出ましたが、最初の三番同士の接戦を酒田三中が取り、惜しくも初戦敗退となりました。
- Dゾーン ここは余目中が力を見せ2試合とも0でとり、決勝リーグに。

決勝リーグ やはり、層が厚い山形二中と余目中が他の試合を2 - 0で下し、全勝対決に。試合はお互いに番手同士がぶつかりました。一番同士は序盤接戦ながら後半突き放して山形二中がとり、同時進行の二番手同士はファイナルにもつれました。その間に三番同士が始まり、やや余目中が優勢でしたが、二番手同士のファイナルは山形二中の前衛小松が1ポイント目からポーチにいき、さらに積極的に動いて4 ~ 5本が

イントをとり山形二中が押し切り2年ぶりの優勝となりました。女子はお互いに三番手まで力があり東北大会でも上位を狙える学校です。

男子個人

地元酒田六中の本多五十嵐組が快進撃を見せました。まず天童三中の松田森山組を2で飛ばすと、昨年度の個人優勝斎藤(長井北)も1で飛ばし準々決勝に進みました。2年ペアでもあり、勢いがありました。続く第1シード工藤田中組(鶴岡四)ともファイナルともう一步でした。選抜にも選ばれた斎藤は今大会を通して調子が戻っていないようでした。プレッシャーもあったようですが、今大会後衛の中ではもっとも地力がある選手ですし、2年生ですのでこれからの精進に期待したいと思います。

また、石塚佐藤組(鶴岡一)は三回戦重野八巻組(米沢一)で苦戦するものの、徐々に調子を上げ、準々決勝田川地区3位の川井本田組(余目)を1,準決勝地区大会1位の工藤田中組も2で飛ばして決勝も勢いそのまま大津石井組(余目)も1で下してうれしい初優勝となりました。決勝は2年前の全中優勝ペア石塚大津組の兄弟対決となりました。お互いに地区大会は5位通過でしたが、本番は勝ち抜き決勝で対戦と、田川地区のレベルの高さを感じます。

他では鶴岡四中の梶丸山組は三番手ながら力のある永澤佐藤組(新庄)、山形地区1位の田中後藤組(山形五)をやぶりベスト八、鶴岡四中の層の厚さを示しました。また、相沢板垣組(山辺)は二回戦で団体準優勝の一番手松本山口組(米沢四)をやぶると調子をあげ第2シードの色摩片倉組(長井北)、都道府県メンバーの本間宮守組(鶴岡四)もやぶりベスト四に進む健闘を見せました。本間が故障のため団体を休んで個人戦にかけ、本来の調子にはほど遠い力ながら、代表決定も勝ち何とか東北大会に進みました。ぜひ、体調を万全にして、県大会の分まで活躍してもらいたいと願っています。

全体的には、ベスト八に田川地区代表の6組が全て入り、東北大会には5組が出ることになり、田川地区のレベルの高さを表しました。また、1年生や2年生の活躍も目立ち、しかも各地区に散らばっています。来年度はかなり分散して、県大会では団体個人とも今年以上の激戦が期待でき、県全体のレベルアップのためにはいいことです。

女子個人

一回戦で組み合わせによりいきなりレベルの高い試合ができました。一つは余目中二番の加藤上野組(余目)対梅津遠藤組(長井北)です。加藤上野組はレベルの高い田川地区で春季優勝していて、梅津遠藤組は1年ペアながら昨年度の全小出場組です。一進一退の内容から4-2で加藤上野組が勝ちました。続く二回戦も結局2位となる平西牧組(宮内)と対戦しこれも一進一退の内容から4-2で平西牧組が勝ちました。

もう一つは今井臼井組(立川)と佐藤板垣組(宮内)の二番手同士の試合です。何度も練習試合をしている対戦です。出だしミスが出た今井臼井組がゲームカウント0-3の1-3までリードされますが、そこから挽回し、ファイナルの末今井臼井組が勝ちました。後半前衛のポイントの差で勝敗が決まりました。しかし、一回戦とは思えない内容でした。続く二回戦は選抜の高丸鳴瀬組(酒田三)にポイントは競りながらミスのない高丸のストローク力に対抗できずは0-4で敗退しました。

三回戦では平西牧組(宮内)が半田鈴木組(山形二)にファイナル勝ち、大津小松組(山形二)が佐藤小池組(山辺)にファイナル勝ちと競りました。

そしてもっとも競ったのが、準々決勝でした。都道府県選抜の4組が順当に上がり、それぞれ四コートに分かれてベスト四を争い、全試合ファイナルとまれに見る大接戦でした。小野大沼組(山形二)は選抜のエースであり県内ではほとんど負けない力を見せていまし

たが、平藤・今井組（羽黒）戦は先に前衛を攻められ苦戦しながらもファイナルへ。しかし最後まで前衛を攻めた平藤今井組が勝ちました。

平西牧組（宮内）対小林成田組（余目）は2年ペアで田川地区大会2位と波に乗る小林成田組が優勢に進め、ファイナルも6 - 1とマッチを握りましたが、ここからドラマが待っていました。勝ちを意識したか小林のストロークにミスが出たり成田のネットプレーにミスが出たりでほとんどラリーにならずに失点を重ねたようです。2年生ペアで焦りが出たようですが、ミスをしなかった平西牧組をほめるべきだと思います。小林成田組はこれから県のトップペアとしてさらに精進してもらいたいと思います。

小松大津組（山形二）対八木佐藤組（立川）は前半2 - 0の2 - 0まで八木佐藤がリードするものの佐藤のミスからこのゲームを落とすと流れが変わり一気に2 - 3まで逆転されました。しかし、ここからもう一度流れが来るから我慢と指示を出し、ファイナルへと流れが変わりました。ファイナルは2ポイント目に佐藤のいい形のスマッシュでリードを広げ、最後は佐藤の前衛オーバーを大津に触らせ逆フォロポイントで勝ちました。

高丸鳴瀬組（酒田三）対佐藤三浦組（余目）も一進一退の内容でファイナルへ。ここも大接戦で7 - 5で佐藤三浦組が勝ちました。

準決勝平藤今井組対平西牧組は西牧が積極的に動いてポイントを重ねるものの粘る平藤今井組が追いついてファイナルへ。ここも接戦でしたが、5 - 5からセカンドレシーブをストレートに勝負にいてネットに打ち込みマッチ、そのまま取られて平藤今井組が敗れました。

八木佐藤組対佐藤三浦組は地区の春季大会は八木佐藤組が勝ち、地区総体は佐藤三浦組が勝つというように接戦をしてきました。でだし、集中力がなかった八木のミスでゲームカウント0 - 2とリードされましたが、ここから集中して打ってあげて、佐藤もミスなくポイントを重ね一気に4ゲーム連取で八木佐藤組が勝ちました。

決勝は選抜同士の八木佐藤組対平西牧組。西牧は積極的に動く前衛でポイントを取ってきましたので、前衛を攻めることや後衛が動いた後や短めのボールはポーチに出てくることを注意させて試合に入りました。1ゲーム目が全てでしょうか。西牧のレシーブ後出てくるところを逆クロスに落とすボールを後衛前衛とも決め前衛の動きを止めると、後は八木、佐藤とも大きなミスなく進め、ボールカウント1 - 3からも逆転して取ったり、私もあまり見たことがないボールの中の高さあたりを通したボール回しが入ったり、短めのボールに出てきた前衛をラケット操作でストレートにかわしてポイントを取ったり、最後のマッチポイントは佐藤のポーチが見事に決まり、八木佐藤組が地区大会も通しても初めての優勝を飾りました。

八木佐藤久美が優勝した勝因としては、八木が対戦した相手前衛に仕事をさせなかったこと、練習してきたこと（逆クロスに落とすボール、前衛のアタック止め（試合の最初に来たレシーブからのアタックはほとんどとめてポイントしたり））を試合で出したことと多くの人から応援してもらって試合ができことだと思います。明るく元気よく一生懸命ボールを打つことで多くの人に感動を与えることができたと思います。

代表決定戦も2試合ともファイナルと接戦でしたが、山形二中の2組が力を出し東北大会を決めました。東北大会は個人が先ですので、個人戦でがんばってその勢いで団体戦に向かってもらえればと思います。

全体を通して、天候にもだいたい恵まれ（予想より雨がなかった）、大きなトラブルもなく進みました。酒田ソフトテニス連盟の中堅若手の連携が良く協力的ですし、飽海地区の先生方審判の高校生も大変動きが良かったため大会運営もスムーズに出来ました。

文責 立川中 大津幸造